

- 1 主題名 物を大切に  
(健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。 1 - (1)) 【資質・能力】 自立する力 - 生活的自立
- 資料名 えんぴつはなんさい (文溪堂)

## 2 指導観

- 本学級の児童は、物を丁寧に大切に使っている児童がいる反面、粗雑に扱っている児童も見られる。遊びのために、消しゴムをわざと切り刻んだり、机に落書きをしたりする児童がいる。また、筆箱や消しゴムなど使える物でも、最後まで使わず、次々に買い換えてしまうことも見られる。

これは、鉛筆や消しゴムなどは、安価で手に入りやすいことから粗末に扱いがちであることが考えられる。また、鉛筆や消しゴムをなくしてもすぐに買い与えてもらえたり、学用品を保護者が準備するので、自分の物と他人の物の区別がつかなくなったりすることも要因である。ものがあふれているがために、身の回りのものを大切にすること意識する場面が少ないのではないかと感じる。

- 物を大切に使うことは、日常生活を送っていく上で重要なことであり、進んで物を大切にしようとすることは、自身の生活をよりよくしていくことにつながる。そこで、自主性が増してくるこの時期に、物を大切に最後まで使おうとする心を育てることが大切である。物や金銭を大切にし、身の回りを整えて生活することは基本的な生活習慣を身につけることでもあり、繰り返し指導していく必要があると考える。物を最後まで使おうとすることは、環境教育とも関連性が深い。

- 本時の資料「えんぴつはなんさい」にて、鉛筆の材料になる木が70年以上も生きてきたものである、という事実を子どもたちの心の中に響かせていくことが重要だと考える。また、そのときに鉛筆が自分の手元にやってくるまでに、たくさんの人たちの働きがあったことも見えてきて、感謝の心が生まれてくることが期待される。物に対する感謝の気持ちが大切に最後まで使おうとする心情につながると思う。

本主題の指導に当たっては、まず導入で、学級の落とし物箱の中身を提示することにより、価値への方向付けをする。

展開前段では、物語の流れに沿って、主人公たかしの気持ちを考えていく。その際、鉛筆の71年を視覚的に捉えられるようにテープ図で表す。また、鉛筆の71年の間にはどんな働きがあって、自分たちの手元に来たのか考え発表させる。児童の発表をもとに板書で整理していき、鉛筆ができるまでにはたくさんの人がかかわっていることに気付かせる。鉛筆が自分の手元にくるまでには、たくさんの人たちがかかわっていることを知り、主人公たかしが考えたことをワークシートに書かせることで、考えを整理させる。

展開後段では、これまでの自分を振り返り、身の回りの物を大切にできた経験やできなかった経験を発表させる。友達の発表(経験)を聞くことで、自分では気付かなかった物にも目を向けさせ、物を大切にすることの価値を深く考えさせる。

終末では、教師が幼稚園の時から使っているはさみと遠足のおしぼりを見せ、どんな思いで、どうやって使っているのか話し、物を大切に使う実践意欲へつなげる。

## 3 本時における指導の工夫点

展開	NO	ねらい達成に対する工夫点
導入	①	学級の落とし物箱の中身を提示することにより、価値への方向付けをする。
展開前段	②	テープ図を用いることで、鉛筆の71年の長さ自分たちが生きてきた8年の長さを視覚的に捉えさせる。
	③	鉛筆が自分の手元にくるまでについて考えさせ、児童の発表をもとに板書で整理していき、鉛筆ができるまでにはたくさんの人がかかわっていることに気付かせる。
	④	鉛筆が自分の手元にくるまでには、たくさんの人たちがかかわっていることを知り、主人公たかしが考えたことをワークシートに書き、考えを整理させる。
展開後段	⑤	これまでの自分のものの扱い方を振り返り、友達の発表を聞くことで、自分では気付かなかった物にも目を向けさせ、身の回りには大切にしなければいけない物がたくさんあることに気付かせる。
終末	⑥	教師が大切にしている実物を提示することにより、物を大切に使う実践意欲へつなげる。

4 本時

- (1) 本時のねらい 鉛筆ができるまでの年月の長さを知り、鉛筆が自分の手元にやってくるまでには、たくさんの人たちの働きがあったことに気付くことを通して、大切に最後まで使おうとする心情を育てる。
- (2) 準備 落とし物箱、ワークシート、挿絵、写真、テープ図
- (3) 展開

段階	学習活動と子どもの反応	指導上の留意点
導入	1 教室内の落とし物を見た感想を発表する。	・教室の落とし物箱にたまった鉛筆や消しゴムを見せ、感想を聞き、本時への方向付けをする。
展開前段	<p>2 資料「えんぴつはなんさい」を読んで、話し合う。</p> <p>①どんな気持ちで鉛筆を削っていたか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろい。</li> <li>・どんどん削れていく。</li> </ul> <p>②おじいちゃんから鉛筆ができるまでの話を聞いて、たかしはどんなことを考えたか話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">おじいちゃんから話を聞いて、たかしはどんなことを考えたでしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉛筆ができるまで71年もかかるんだ。</li> <li>・木を切ってから、さらに1年も乾かさないといけないんだ。</li> </ul> <p>③どんな働きがあって、鉛筆が自分の手元に来たのか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">お話を書いてあること以外で、鉛筆が自分のところにやってくるまでにはどんなことがあったでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木を育てる人がいる。</li> <li>・木を切って、鉛筆の形に切る人がいる。</li> <li>・針を入れないといけない。</li> <li>・店に運ぶ人がいる。</li> <li>・家の人が鉛筆を買ってくれた。</li> </ul> <p>④削りすぎて短くなった鉛筆を見ながらたかしがつぶやいたことを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">たかしはどんなことをつぶやいたでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろがって、けずってごめんなさい。</li> <li>・いろいろな人が関わっている。</li> <li>・だから、物を大切にしないといけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵を見せ、たかしの表情や「おもしろい」「なんども」という言葉などから、おもしろがって鉛筆を削っているたかしの気持ちに共感させる。</li> <li>・挿絵を見せ、鉛筆を削っていた時のたかしの表情との違いから、たかしの気持ちの変化に気付かせる。</li> <li>・鉛筆の71年を視覚的に捉えられるようにテープ図を見せる。</li> <li>・資料に書かれていること以外に、鉛筆ができるまでにはどんなことがあったか考えさせる。</li> <li>・子どもたちの発言を元に、鉛筆の71年を図式化した板書を行い、1本の鉛筆ができるまでにはたくさんの人と長い年月をかけてできたことに気付かせる。</li> <li>・鉛筆が自分の手元にくるまでには、たくさんの人がかかわっていることやかかわる人たちの思いを考えさせることで、「だから、大切にしないといけないのか。」と気付かせる。</li> <li>・たかしの気持ちになって考えるためにワークシート（挿絵・吹き出し）を使って気持ちを書かせる。</li> <li>・ペアで交流した後、全体交流を行うことで、自分の思いや考えを共有できるようにする。</li> </ul>
展開後段	3 これまでの自分を振り返り、身の回りの物を大切にできた経験やできなかった経験を発表する。	・鉛筆以外の物にも目を向けさせ、これまでの経験を想起させることで物を大切にすることの価値を深く考えさせる。
終末	4 教師の説話を聞く。	・教師が幼稚園の時から使っているはさみや遠足のときのおしぼりを見せ、物を大切にしようとする実践意欲へつなげる。